水環境館いきものトピックVol.13

台風一過の紫川にて

台風が過ぎた10月のある日、水環境館前の水上ステージに溜まったゴミを集めていると、いろんな生き物が流れ着いているのが観察できました。

まず目に入ったのがニホンアマガエル。ポンツーンというカヌーの離発着場のいたるところにいます。ニホンアマガエルの指には吸盤があるため、垂直な壁にくっつくことができます。

また、押し寄せたゴミや枝の上に見られたのがヌマガエルです。こちらはアマガエルと違い、指に吸盤がないため壁にくっつくことができません。北九州では最も個体数が多いカエルと思われ、夏場には足の踏み場がないほど大量に見られる事も多くあります。今回の漂着ゴミ周辺でも、ざっと数えて10匹以上のヌマガエルを確認できました。

ニホンアマガエル
街中の植え込みや家の壁に張り付く姿をよく見かけます。

ヌマガエル
頭から背中にかけて「背中線」とよばれる線が入っています

ヌマガエル
こちらは背中線が無い個体。
模様が無いため見つけづらいです。

川やその周りの水辺に生息する生き物は「浸透圧」という、塩分によって体液を奪われる現象に弱いため、海水の影響を受ける場所ではあまり見られません(ヌマガエルは、海には入らないものの海岸近くの水場に密集していることもあります)。そのため、これらの生き物はもともと水環境館の近くに住んでいる生き物ではなく、雨によって川や山から流されてきた生き物です。こうして川から海へ流された生き物は、川の流れが落ち着くと、ふたたび川に戻っていきます。また、浸透圧の調整ができる生き物や、海の表層にできた淡水の層を伝って移動できる生き物は、近くの別の川へ上がり、生息地を広げることがあります。

ナメクジの仲間

ナナホシテントウ

約15分でゴミ袋4つ

しかし、川から流されたゴミは、再び川を遡上することはなく、ひたすら下流へ流され続けて海を漂います。そしてそのゴミの多くは、細かく砕けて海洋動物が飲み込んでしまったり、底に沈んで絡まってしまいます。また、生き物以外にも、漁業や観光業など、我々の暮らしにも悪影響を与えてしまいます。これらのゴミの多くは、川に捨てられたものではなく、道端や山に捨てたゴミが雨に流されて川に集まってきたものです。同じ地球に住まわせてもらっているもの同士、生き物も人間も暮らしやすいようにできることを考えていかなければなりません。

水環境館
RIVER MUSEUM
住所 / 北九州市小倉北区船場町1-2
開館時間 / 10:00～19:00 休館日 / 原則火曜日(長期休暇期間中除く)・年末年始
お問い合わせ / 093-551-3011
指定管理者 / 玄海グリーン＆アドベンチャー共同企業体
http://mizukankyokan.jp